

第 84 回ラジオ m j c 『フェスティバルゲストトーク前半』

内 容

みなさんどうぞ、お越しくださってありがとうございました。平日金曜日の昼下がり、この映画いかがですかね？

フランス映画というのは、時々こういう社会性のある作品を生み出すことがあるのですが、一昨年の菜園のルミエールで「サンドラの週末」という映画が公開されました。これをご覧になった方いらっしゃいますか？いらっしゃらないですか。そうですね。私が行った時もあまりお客さんが入っていませんでした。……。

この映画はですね、ある工場を経営する会社で育児休業をとっているサンドラという女性がいて、ところが育児休業中になんと会社から解雇通知が届くんですね。まさか育児休業をとっている自分のところに解雇通知が届くというのはとんでもない話で、まったく予想だにできなかったんですね。

育児休業中にも関わらず、会社の同僚に働きかけて、自分が職場復帰できるように自分の力になってくれと、社員の家を一軒一軒回ってですね、説得する活動に入るんですね。そうするとやはりですね、社員の中にも自分の身が大切な方がいますし、自分としてはサンドラの気持ちはわかるけれども、家族の事を考えると、会社に楯突けないんだというんですね、そこらあたりで会社の中の間人間関係が二つに割れていく。その結末はどうなるでしょう？というなかなか深刻なお話だったんです。

ところがですね、明るいエンディングにはならなかったんですね。結局、会社側につく方の人間が多くなって、自分は会社から身を引く立場になってしまうんです。ところが、そこから先がフランス映画らしいなというところで、自分はもう、誰も当てにしないで自分一人でまた新しい道を探ろうと進んでいこう、というところで終わるところがまたこのフランス映画らしい感じがしたんですね。

パリジェンヌ・・・、92歳のパリジェンヌっていうタイトルをご覧になってですね、最初タイトルだけご覧になるとどういう印象を持たれたか分からないんですけども、私の個人的な経験から言うとですね、9年前に実母が92歳で亡くなっているもんですから、この92という数字はですね、ちょっと感慨を覚えてしまうんですけども、しかし今日出たおばあちゃんと私の母というのは随分タイプが違いすぎるんですね。

それはそうとですね、今日の映画を観てですね、あのいろいろ考えさせられたことは多いと思うんですけども、途中あの産気づいた女性の分娩を助けるシーンがありましたよね？あそこは私はとても印象に残りまして、なんかもう死ぬ日を予告するような方、おばあちゃんがですね、新しい生命を、それこそなんというか生氣あふれる表情でその赤ちゃんを取り上げるシーンが非常にこう印象に残ったんですね。

私はこれからの高齢社会がどんどん進化していく、今は2025年問題なんて話が出てきまして、1940年代にお生まれになった、いわゆる団塊の世代という方が軒並み後期高齢者になるという2025年問題というのが問題になってきているんですけども。まあ、問題はその後とですね。その大量の人口を構成している団塊の世代が社会から消えていく、そのあとの日本が非常に大変じゃないかと思うんですね。

日本って言うのはですね、かつて東大の中根千枝先生という社会学の先生が「縦社会の人間関係」という有名な評論を発表したことがあったんですけども、今でも売られているんですけども、なかなかじわじわと売れ続けているんです。

日本って言うのは、縦型思考、縦型発想で物を見るというのがすごく一般的というかですね、浸透している世の中ですね。社長対社員、上司対部下、男女関係でも「男女」と、まあ「女男」というとなんだか心がよくないのかもしれないですね。男女の関係がそのまま男が上みたいな感じですね。健常者・障害者ですね、強者・弱者、高齢者・若者、色々対立構図がよくみられることが非常に多い所なんです。私は、やっぱり横型で物を見ていく世の中になっていけばいいのではなかと。

ですから今日、映画をご覧になった方はですね、是非、ご主人や息子さんや色んなお知り合いがいますよね。女性男性に関わらず、もりおか女性センターの映画は面白いよと、皆様方が男女はお互い様であるということで、PRをしていただきたいと思います。

私も、実はこちらでは大変お世話になりまして、これまでたくさんの映画を見せていただいたんですよ。

例えば、中東のイランの女の子たちがサッカーの試合を観たいといっても、女の子はサッカー場に入れてもらえないんですよ。そうすると男の子に変装してもぐりこんでサッカーの試合を観たいという女の子たちが出てくるわけですよ。こういうのを見ているとですね、当然競技場の中では、その女性がサッカーを見に来ていないかという取締りをやるわけですよ、兵隊達が。見つかった女の子が携帯電話を取り上げられてですね、兵隊がそのとりあげた電話で彼女とおしゃべりなんかして、そんな場面が出てきてですね、非常になんか世界、人間なんかそんなに変わらないんだなということが良くわかります。

それからサウジアラビアの映画では自転車に乗せてもらえないサウジの女性の姿が描かれているんですね。

非常にあのグローバルという言葉があるんですけども、グローバル的な感覚を味わえるのは、この女性センターさんの映画祭っていうのはなかなか興味深い題材が揃っているんですよ。これから女性センターニュースはご注目していた方がいいんじゃないんですかね。そう思います。

そんなとりとめのない話をしながら時間がきてしまいましたけれども、また、他の作品もお楽しみいただいて、ここが面白かったわよというようなお話を外でしていただければ、とてもうれしいと思います。はい、つたないトークですが、これで終わらせていただきます。